受験（受検）校を決めるまで

学校選びについて…「行ける学校」ではなく「行きたい学校」を選びましょう

・高校を知るきっかけは何でもよい
よくある「きっかけ」
名前を聞いたことがある
有名な大学へ進学している人が多い
サッカーやバレーボール、野球など、スポーツが盛ん
近所の通っている人からいい学校だと聞いている・・・など

※　高校を知るきっかけはいろいろあると思いますが、そのあとに詳しく調べることがとても重要です。

興味を持った高校の調べ方

・資料（パンフレットや募集要項）を取り寄せる
→高校のホームページから資料請求できることがほとんどです。
（特に私立高校では、電話で問い合わせたり、直接高校に行ったりすると資料をもらえる場合があります。）
（公立高校は全体の募集要項が例年9月にできるので、それぞれの高校ごとの募集要項は９月以降になります）

・高校のホームページを見て調べる
→まだ令和3年度入試に更新されていない高校もありますが、昨年度のオープンハイスクールの様子や募集要項が残されていることがほとんどです。（十分参考になります。）

・実際に通っている（通っていた）人やその家族に高校の様子を聞いてみる。

・オープンハイスクールや学校説明会に参加し、校風（その学校の雰囲気）などを知ったり感じたりする
→都合がつかずオープンハイスクールなどに行けない場合は、高校の外から様子を見たり、登下校の様子を見たりしてみましょう。

・通学に無理がないかどうかも確認する
（通学に時間がかかりすぎると、かなり早起きしないと遅刻してしまうし、帰宅時間も遅くなります。毎日通うことが苦痛になります。）

※　本人（通う人）に合った高校を選ぶことが大切です。

行きたい高校が決まったら

家族で話し合った結果、行きたい高校が決まったら、まずは担任の先生にご相談ください。また、進路希望調査が配付された際は、行きたい高校を記入して提出してください。

11月初旬、12月中旬の三者懇談会では、今までの成績（通知表評価や3年生の実力テストの結果）と過去に受験（受検）した生徒の成績や予想される倍率などを十分比較検討します。その上で「行きたい高校」が本人の適性や学力に見合ったものかどうか（合否の可能性についても）話し合います。他にも、実際にその高校に通うことになったとき、学校生活にうまく適応できるか（雰囲気や授業の進度など）も含めて受験（受検）する高校を決定します。なお、合格できるかどうかだけで受験（受検）する高校を決定すると、合格できたまでは良かったものの、実際に通学したとき、「こんなはずではなかった」と、３年間苦しい思いで過ごすことになってしまいます。そのように後悔することがないよう、家庭（本人、家族、親戚など）で慎重に受験（受検）する高校を決定するようにしましょう。

12月初旬に「進路指導委員会」と呼ばれる会議を行います。
これは校長、教頭、３年生職員が一人一人についての志望校の合格の可能性と適性を十分時間をかけて検討するものです。

このようにして、いくつかの「行きたい高校」の中から、実際に「受験（受検）する高校」を決定しますが、決定したからといって必ず合格できるとは限りません。決定後は合格に向けてこれまでの復習を行い、過去の入試問題に取り組むことで学力を高めていきましょう。この最後の努力が合格のための大前提であり、高校に入学したときの基礎学力になるのです。

なお、私立高校もそうですが、公立高校では特に倍率（定員に対する受験者数の割合）が大きく影響します。倍率が高くなれば、一般的に、難易度（合格最低点）も高くなります。定員の少ない高校は倍率による影響を大きく受けるので、「受験（受検）する高校」が決まっても気を抜くことのないようにしましょう。

＜実際に「受験（受検）する高校」を決めるまでのおよその流れ＞

１学期　三者懇談（８／３～７）　・・・　現状の把握など
↓
２学期（１１月頃まで）　オープンハイスクール、学校説明会に参加
↓
予備懇談（１１／４～９）　・・・　志望校(「行きたい高校」)の確認
↓
進路指導委員会（１２月初旬)・・・校長、教頭、３年生職員で志望校の可能性を検討
↓
三者懇談（１２／７～１１）　・・・　志望校（「受験（受検）する高校」）の決定
↓
出願願書の取り寄せ（※　基本的には中学校で行います　１２／１８～）
↓
願書提出（出願）　（私立１／１２～　公立推薦等２／２～　公立一般２／２４～）

進路決定のもとになる資料（成績）

私立高校は入学試験（学力検査）と面接、調査書を総合的に判断して合否を決定します。また、公立高校の２月の推薦入試や特色選抜では調査書と面接、実技試験や学力試験があればそれも踏まえて総合的に判断して合否を決定します。公立高校の３月の学力検査（一般入試）では「調査書の学習の記録の第３学年の評定」と「学力検査の結果」を中心に、「学習の記録以外の諸記録」を参考として用い、総合的に判断して合否を決定します。いずれの受験（受験）においても「調査書」を合否判定の資料にしているので、中学校での授業を大切にし、課題等を期限までに必ず提出するようにしましょう。

＜３年生の成績(評定)について＞

１学期

期末テスト（７／２１～２２）

課題テスト・実技テスト・作品・提出物等

→ ５段階評定…　／４５

２学期

実力テスト（９／４）

中間テスト（１０／８～９）

学習到達度調査（１１／２）

期末テスト（１１／１９～２０）

実技テスト・作品・提出物等

→ ５段階評定…　／４５

＜判定材料＞

入試予想点　／２５０
２回の平均点(５００点満点)÷２

＋

５段階(換算点)　／２５０
５教科×４　＋　４教科×７．５

※進路指導委員会では
＜判定材料＞　＋　人物評価・検定・部活動成績など　で合否の可能性を話し合います

調査書とは（公立高校）

各教科の学習の記録　…　１年生、２年生は学年の評定が記載されています。
３年生は１、２学期の成績を十分参考にして１月末までに評定を出し、記載します。

出欠の記録　…　１年生、２年生は学年の出欠数が記載されています。
３年生は１月末までの出欠数が記載されます。

特別活動の記録　…　生徒会・学級会の委員経験、学級活動・生徒会活動・学校行事等特別活動、部活動、学校外における活動の成果、ボランティア活動のうち、顕著なものがあれば記載されます。

※私立高校も１～３年生の各教科の評定、出欠数、特別活動の記録が記載されます。

評定の点数換算表（公立高校複数志願選抜）の例

教科	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	技家	保体	英語	合計
3年生の評定										
倍率	×4 ‖	×4 ‖	×4 ‖	×4 ‖	×7.5 ‖	×7.5 ‖	×7.5 ‖	×7.5 ‖	×4 ‖	
素点										

例１

教科	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	技家	保体	英語	合計
3年生の評定	4	3	3	3	4	3	3	2	4	
倍率	×4 ‖	×4 ‖	×4 ‖	×4 ‖	×7.5 ‖	×7.5 ‖	×7.5 ‖	×7.5 ‖	×4 ‖	
素点	16	12	12	12	30	22.5	22.5	15	16	158

※例１のように、「３年生の評定」のうち、５教科（国・社・数・理・英）の評定を４倍したものと４教科（音・美・技家・保体）の評定を7.5倍したものを合計した点数が公立高校の複数志願選抜の「判定資料（A）」(250点満点）となります。４教科（音・美・技家・保体）は試験当日、学力検査が行われないので配点が高くなっています。

例２（５教科…すべて４、４教科…すべて３）

教科	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	技家	保体	英語	合計
3年生の評定	4	4	4	4	3	3	3	3	4	(32)
倍率	×4 ‖	×4 ‖	×4 ‖	×4 ‖	×7.5 ‖	×7.5 ‖	×7.5 ‖	×7.5 ‖	×4 ‖	
素点	16	16	16	16	22.5	22.5	22.5	22.5	16	170

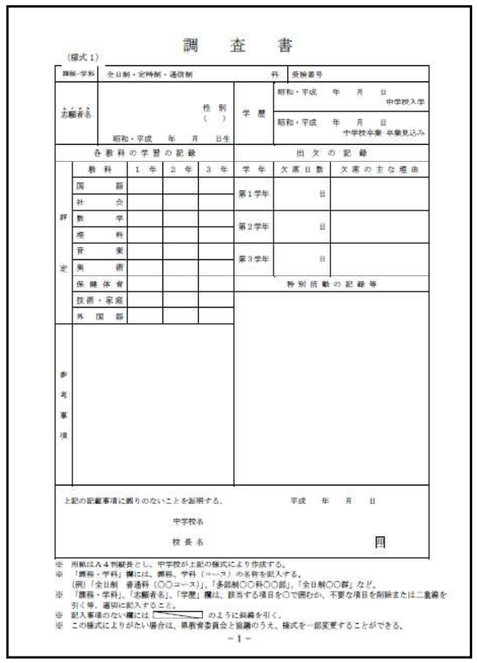
例３（５教科…すべて３、４教科…すべて４）

教科	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	技家	保体	英語	合計
3年生の評定	3	3	3	3	4	4	4	4	3	(31)
倍率	×4 ‖	×4 ‖	×4 ‖	×4 ‖	×7.5 ‖	×7.5 ‖	×7.5 ‖	×7.5 ‖	×4 ‖	
素点	12	12	12	12	30	30	30	30	12	180

※例２と例３を比べると「４」の数の多い例２の方が良く見えますが、点数を換算すると例３の方が高くなります。実技の多い４教科も気を緩めずに取り組みましょう。

参考：実際の調査書(高校によってはインターネット上に公開されています)

公立高校


調　査　書

（様式１）

課程・学科	全日制・定時制・通信制　　科	受検番号
志願者名	性別（　）	学歴
	昭和・平成　年　月　日生	昭和・平成　年　月　日 中学校入学
		昭和・平成　年　月　日 中学校卒業・卒業見込み

各教科の学習の記録

評定	教科	1年	2年	3年
	国語			
	社会			
	数学			
	理科			
	音楽			
	美術			
	保健体育			
	技術・家庭			
	外国語			
参考事項				

出欠の記録

学年	欠席日数	欠席のおもな理由
第1学年	日	
第2学年	日	
第3学年	日	

特別活動の記録等

上記の記載事項に誤りのないことを証明する。　　平成　年　月　日

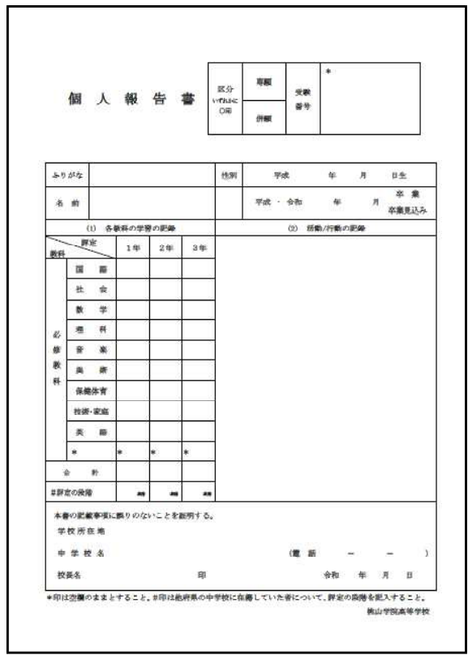
中学校名

校長名　　印

※　用紙はA４判縦長とし、中学校が上記の様式により作成する。
※　「課程・学科」欄には、課程、学科（○○コース）の名称を記入する。
　（例）「全日制　普通科（○○コース）」、「多部制○○科○○部」、「全日制○○部」など。
※　「課程・学科」、「志願者名」、「学歴」欄は、該当する項目を○で囲むか、不要な項目を削除または二重線を引く等、適切に記入すること。
※　記入事項のない欄には ―――― のように斜線を引く。
※　この様式によりがたい場合は、県教育委員会と協議のうえ、様式を一部変更することができる。

－1－

私立高校(桃山学院高校)


個人報告書

区分いずれかに○印	専願	受験番号	*
	併願		

ふりがな		性別	平成　年　月　日生
名前			平成・令和　年　月　※卒業見込み

(1) 各教科の学習の記録

教科＼評定		1年	2年	3年
必修教科	国語			
	社会			
	数学			
	理科			
	音楽			
	美術			
	保健体育			
	技術・家庭			
	英語			
	*	*	*	*
合計				
9評定の換算		倍	倍	倍

(2) 活動/行動の記録

本書の記載事項に誤りのないことを証明する。

学校所在地

中学校名　　(電話　－　－　)

校長名　　印　　令和　年　月　日

＊印は空欄のままとすること。9印は絶対系の中学校に在籍していた者について、評定の換算を記入すること。

桃山学院高等学校

いろいろな学校

（１）全日制高等学校

私立と**公立（県立、市立など）**があり、中学校と同じように、朝、登校して６～８時間の授業を受け、（部活動をして）夕方下校します。５教科中心に勉強する**普通科**の他、**工業科、商業科、体育科、音楽科、美術科**などの**専門学科**、豊富な選択教科を選べる**総合学科**などがあります。また、普通科の中にも、特色のある**コース**（ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｺｰｽなど）や特色選抜（総合ﾋｭｰﾏﾝ**類型**など）を設けている学校や単位制の学校もあります。

私立では、普通科の中に、**特別進学コース**や**国際コース**、**スポーツコース**などを設けている学校がたくさんあります。

（２）定時制高校（公立）

夕方６時前に登校して４時間程度の授業を受け、（部活動をして）９～１０時頃下校します。昼間は働いて、夜、勉強したい人に適しています。

多部制といって、Ⅰ部（午前）、Ⅱ部（午後）、Ⅲ部（夜間）に分かれている学校もあります。県立阪神昆陽高等学校や県立西宮香風高等学校などがそうです。

いずれも、休まず計画的に単位を取っていくと基本は４年間、最短３年で卒業することができます。

（３）その他の国公立学校

５年制の**工業高等専門学校**（４年制大学に編入できる）や**国立教育大学附属高校**、１年制の**「山の学校」**、ハローワークの紹介による**職業訓練校**などがあります。

（４）通信制高校

テキストをもとに、家でレポートを作成して学校に送り、添削してもらうことによって学び、単位を取得する学校です。体育などの実技教科は、スクーリングといって、定められた学校で、土日に受講します。公立と私立があり、**公立**の通信制高校では、独学でレポートを作成しなければならないのに対し、**私立**の通信制高校では、学校がテキストを取り寄せ、塾のように講師の先生が学習の手助けをしてくれる学校がほとんどです。インターネットを通して、ほとんどの教育課程を履修できる学校もできています。

いずれも、休まず計画的に単位を取っていくと３年で卒業することができます。

（５）高等専修学校

理美容や調理、ペット、ビジネスなどを専門に学ぶ学校です。**通信制高校と連携**して、時間割を組み、３年間で、色々な資格と高校卒業の資格を取得できるようになっている学校がほとんどです。

受験(受検)について

（１）私立高校

例年、２月１０～１１日頃に入学試験が行われます。京阪神の高校の入試日は統一されているので、１校しか受験できません。試験教科は、主に５科ですが、３科（国・数・英）や２科選択の学校もあり、多くの学校で、**面接試験**が実施されます。１月下旬に、中学校からまとめて願書を郵送するか、同じ学校ごとにまとまって、願書を提出しに行きます。合格すれば、すぐに入学手続きをする**「専願」**と、公立高校も受検し、主に公立高校が不合格になった場合に入学手続きをする**「併願」**の２つの受験型があります。

（２）公立高校（県立、市立など）

① 推薦・特色選抜

例年、２月初旬に願書を受け付け、１５日前後に検査があります。普通科では、「ＧＣ(グローバル・コミュニケーション)コース（市立伊丹)」などの推薦（**学校推薦**）と、「総合ヒューマン類型（伊丹西)」「GLiS類型（グローカル・リーダース・イン・サイエンス）（県立伊丹)」などの**特色選抜（自己推薦）**があります。

総合学科や単位制は定員の半数が推薦（学校推薦）による募集です。工業科や商業科、体育科など県下の専門学科でも定員の全部または半数を推薦で募集します。

検査の内容は、小論文や面接試験、実技検査など、学校や学科によって様々ですが、調査書の成績が合否に大きく関わります。**合格すれば、必ず入学することが条件になり、出願後の志願変更もできません。**

② 学力検査

例年、２月下旬に願書を受け付け、３月１２日前後（卒業式後）に学力検査があります。

普通科・総合学科では、第２学区の３４校の中から「第１志望校」「第２志望校」を選んで受検することができます（**複数志願制**）。

学力検査の内容は、国語・数学・社会・理科・英語の５教科で、調査書の成績（９教科の５段階）を点数化したものと合計して、合否が決められます。その際、複数志願制では、第１志望校に加算点２０点が追加されます。

工業科、商業科なども定員の半数を学力検査で受検することができます。検査の内容や合否の判定方法は複数志願制と同じです。

※志願変更について

出願後、１回に限り、次の場合にのみ志願変更することができます。

Ａ．複数志願校同士の場合、第２志望のみ

Ｂ．複数志願校から単独選抜校（工業科、商業科など）

Ｃ．単独選抜校（工業科、商業科など）から複数志願校は同一校内の学科への志願変更のみ認める。
その場合、第２志望は認めない

Ｄ．単独選抜校（工業科、商業科など）同士

全日制も定時制も同じ問題で検査日時も同じです。ただし、多部制の学校では、受検日がⅠ期とⅡ期に分けられ、Ⅰ期試験は、「推薦」と同じ日で、作文と面接のみとなっています。

（３）工業高等専門学校

工業高等専門学校にも、「推薦」と「学力」があり、高校入試とは検査日が異なりますが、出願や発表の日が重なることがあるので、優先順位をつけるなど注意が必要です。

国立教育大附属も同様です。

（４）高等専修学校・私立通信制高校

早い学校では、１２月に推薦入試が始まり、日時も教科も学校によって異なります。

私立高校と同様に他校との「併願」ができる学校もあります。

オープンハイスクール、学校説明会の注意事項について

公立高校では、８月末までのオープンハイスクールや学校説明会の中止が決定しています。なお、今のところは10月の土曜日に実施が集中しています。オープンハイスクールや学校説明会の際、授業体験や部活動見学のできる学校もあり、高校について知るチャンスなので、可能な限り参加されることをおすすめします。多くの学校では、ＷｅｂページやＦＡＸで、各家庭から直接申込みできるようになりました。

私立高校では、１学期から２学期にかけて、休日ごとに実施している学校が多く、各家庭から、ＷｅｂページやＦＡＸのほか、電話やはがきでも申し込めるようになっています。例年、合同相談会も催されています。

公立については、学校からの申し込みや、個人での申し込みなどありますが、参加されるときは必ず担任までお知らせください。学校によっては、中学校の教員が引率したり、現地で点呼をとる場合もあります。**私立**についても、参加されるときは必ず担任までお知らせください。いずれも、徒歩または公共交通機関を使い、各家庭の責任で参加してください。

（日本スポーツ振興会の災害共済給付の対象になりません）